



**ASAHIKAWA
CITY**

第4回 旭川市GX懇談会 調査結果報告

令和8年1月28日

目次

1. 現地調査	3
(1)動植物調査	3
2.ヒアリング等の実施状況	7
(1)専門家ヒアリング	8
(2)関係者ヒアリング.....	14
3.景観調査	17
(1)可視領域図.....	17
(2)フォトモンタージュ.....	28



1 現地調査

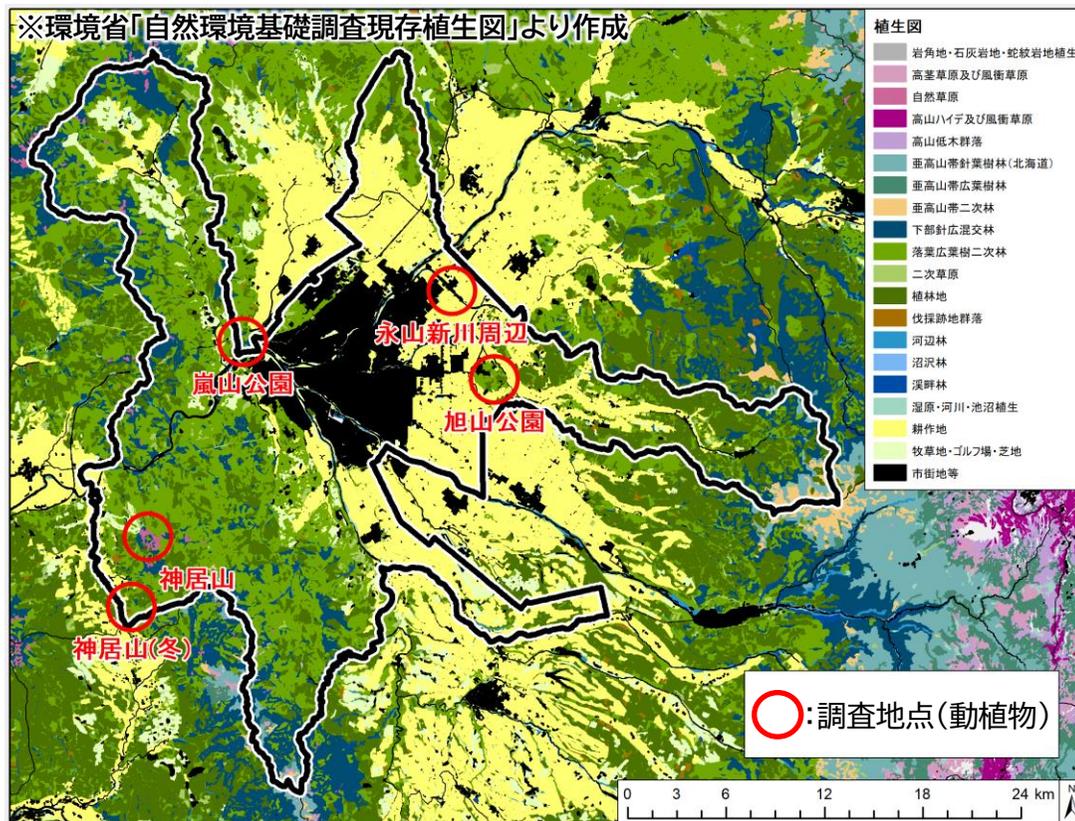
(1) 動植物調査

① 調査概要

・文献調査結果を補完するため、「第2次旭川市緑の基本計画」において生物多様性保全の観点から重要な緑地などの“中核地区”に指定されている箇所を対象に、現地調査を実施。

調査対象	調査時期		
	夏季	秋季	冬季
鳥類	8/28-29	10/14	1/15
昆虫類	8/28-29	—	—
維管束植物	8/28-29	—	—
淡水魚類	—	—	1/15

調査地		夏季	秋季	冬季
旭山公園		●	●	●
嵐山公園		●	●	●
神居山		●	●	●
永山新川		—	●	●
河川	内大部川	—	—	●
	オロエン川	—	—	●
	雨粉川	—	—	●



動植物の現地調査地の位置図



1 現地調査

※環境DNA調査の解析結果は2月に完了予定。

(1) 動植物調査

① 調査概要

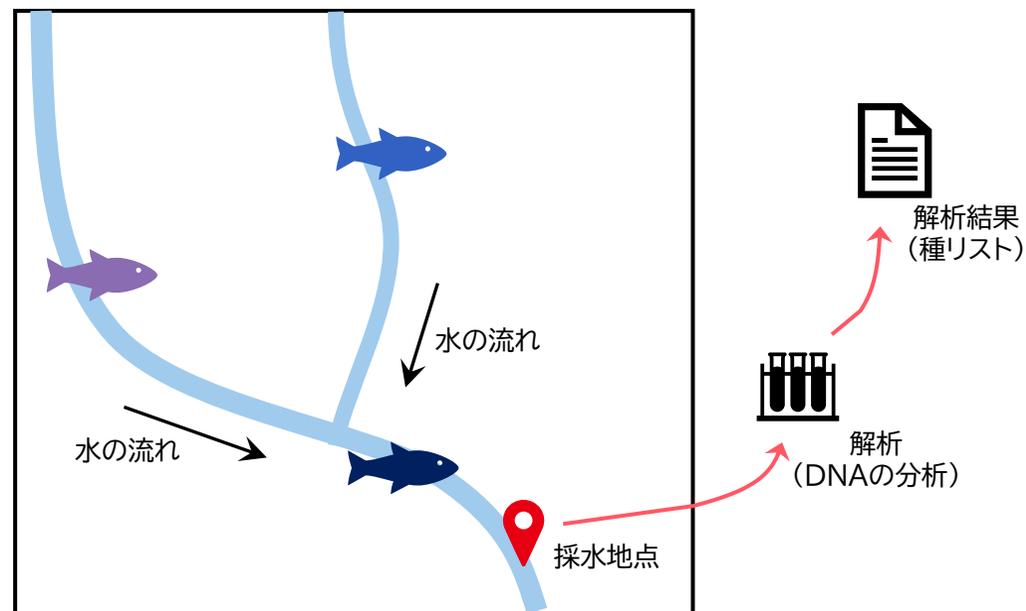
・淡水魚類、ニホンザリガニについては、調査対象河川での生息状況を確認するため、**環境DNA調査**を実施。

※環境DNA調査とは、河川・湖・海から採取した水に含まれるDNAを解析することで、そこに生息する生物の種類や数などを調べることができる技術。

調査対象	環境DNA調査の方法
淡水魚類	網羅的解析 (どのような種がいるのかを解析)
ニホンザリガニ	種特異的解析 (その種がいるのかどうかを解析)



内大部川での採水サンプル



※環境DNAの検出結果は、採水地点の上流6km以内の既存観測データとの整合性が高いと言われている。

環境DNA調査のイメージ



1 現地調査

(1) 動植物調査

② 調査結果

調査対象	観察された主な重要種		
	夏季	秋季	冬季
鳥類	なし	クマゲラ、エゾライチョウ、 ハイタカ、マガン、 エゾヤマセミ	オオワシ、オジロワシ、 クマゲラ、エゾヤマセミ
昆虫類	なし	—	—
維管束植物	なし	—	—
淡水魚類	—	—	※解析結果は2月に 完了予定

・冬季の現地調査では新たに重要種2種が確認された。

➡ ゾーニングマップでの環境配慮事項
に係る基礎情報として整理。



オオワシ(成鳥)



オジロワシ(若鳥)



1 現地調査

(1) 動植物調査

② 調査結果

- ・オオワシとオジロワシは、■■■■■■の■■■■■■で観察された。
- ・採餌のために、冬季に凍結しない支流周辺の区域も利用していると考えられた。

※希少種の生息地情報のため非公表

オオワシとオジロワシの飛翔図(令和8年1月15日確認)



2 ヒアリング等の実施状況

(1) 専門家ヒアリング

① ヒアリング概要

専門分野	専門家の所属・氏名	ヒアリング概要
鳥類	東京農業大学オホーツクキャンパス北方圏農学科 白木彩子 准教授	12月にメールで実施
	旭川北高等学校 磯清志 非常勤講師	12月にWEB会議形式で実施
コウモリ類	オサラッペ・コウモリ研究所 出羽寛 代表	12月にメールで実施
昆虫類	北海道教育大学旭川校 安藤秀俊 教授	10月にWEB会議形式で実施
植物類	旭川市北邦野草園 堀江健二 園長	1月にメールで実施
自然環境	大雪と石狩の自然を守る会(あさひかわ自然共生ネットワーク) 寺島一男 代表	11月に対面会議形式で実施



2 ヒアリング等の実施状況

(1) 専門家ヒアリング

① ヒアリング結果(コウモリ類)

項目	内容
(1) コウモリ類の生息状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道には20種のコウモリ類の生息が確認されており、そのうち12種類が旭川地方で確認されている。 ■突哨山:確認種が10種と最も多く、生息密度が高い ■嵐山 :確認種は5種 (調査回数が少ないためかもしれない) ■旭山 :確認種は2種 (調査回数が少ないためかもしれない) ■市街地:確認種は3種が広く分布
(2) 再生可能エネルギー事業に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・風力発電でのバットストライクで特に問題になるのは主にヤマコウモリ、キタクビワコウモリ、ヒナコウモリ等、狭長型の翼をもった種である。 ・■■■■のハルニレをねぐらにするヤマコウモリは■■■沿いに■■、■■■方面への上空を飛翔していると思われる。

➡ ゾーニングマップでの「環境配慮事項」として整理。



2 ヒアリング等の実施状況

(1) 専門家ヒアリング

① ヒアリング結果(コウモリ類)

属	種	生息確認状況			
		■	■	■	■
キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	○			
	キクガシラコウモリ	○			
ホオヒゲコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ*	○	○		
	カグヤコウモリ*	○			
	モモジロコウモリ	○	○	○	○
ヤマコウモリ	ヤマコウモリ*	○			
クビワコウモリ	ヒメホリカワコウモリ (キタクビワコウモリ)		○		○
ヒナコウモリ	ヒナコウモリ*		○		○
チチブコウモリ	チチブコウモリ*	○			
ウサギコウモリ	ニホンウサギコウモリ*	○			
テングコウモリ	コテングコウモリ*	○	○	○	
	コテングコウモリ*	○			

*印は重要種

※希少種の生息地情報のため非公表

コウモリ類の生息確認状況



2 ヒアリング等の実施状況

(1) 専門家ヒアリング ②ヒアリング結果(地域に特徴的な生態系)

項目	内容
近郊の丘陵から山地と石狩川の生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・上川盆地は、北側に突哨山、西側に嵐山・神居枯潭、東側に旭山、南側に神楽山といった丘陵・山地に囲まれており、豊かな森林生態系が形成されている。 ・石狩川水系河川が上川盆地を放射状に流れ、神居古潭を通過して空知平野に流れ出ており、豊かな河川生態系が形成されている。 ・旭川では生物相の豊かな周辺の丘陵、山地と河川生態系を結ぶ緑のネットワークが重要である。
嵐山の特徴と保全活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山は自然生態系、縄文からアイヌ時代、明治期以降の歴史について市民が野外で学べる貴重な環境であり、旭川市民にとって3つの大事な要素がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1)市街地近くに残る貴重な落葉広葉樹林の生態系 2)赤色珪岩や蛇紋岩に代表される嵐山の地質は神居古潭帯の端にあり、地史的に重要 3)無土器時代、先土器時代、縄文文化期、擦文文化の遺跡があり、アイヌ民族にとって聖なる場所でもある ・1985年に嵐山の観光開発計画が旭川観光協会から出され、それに対して旭川自然史懇話会(1989年に市民団体設立の嵐山ビジターセンター)と東海大学建築学科橋場ゼミの2者が自然環境の保全活動を軸として提言を提出したのが始まり。 ・嵐山は縦走ツアー(嵐山の7つの峰を伝う)を昔から市民が楽しんできた丘陵である。
突哨山の特徴と保全活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・突哨山は以下の4つの理由を元に保全活動を展開し、ゴルフ場計画地を買い戻し公有地化してきた経緯がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1)旭川市の緑のネットワークの大切な要で旭川の北側で唯一のまとまった緑地である 2)日本で最大級の春植物カタクリ、エゾエンゴサク等の大群落がある 3)起伏が少なく年齢や体力に合わせて誰でも歩きやすい里山である 4)突哨山の沢水は東鷹栖の水田に入り、一部は市民の飲み水にもなっている ・2001年に旭川市は突哨山自然環境保全懇話会を市民グループ、公募市民を交えた19人の委員で5回の討議を経て「突哨山の保全・管理・活用に関する提言」を発表した。 ・2008年に市民、行政、指定管理者の3者による突哨山運営協議会(事務局は指定管理者)を立ち上げ、現在に至っている。

➡ ゾーニングマップでの「環境配慮事項」として整理。



2 ヒアリング等の実施状況

※第3回懇談会資料から専門家ヒアリングにより追加修正した箇所を赤字で記している。

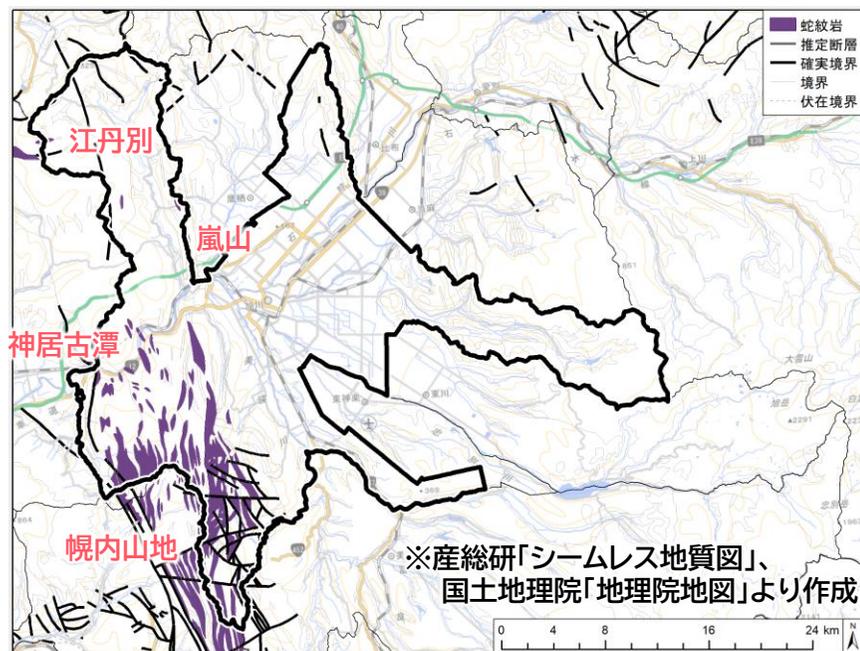
(1) 専門家ヒアリング

③ ヒアリング結果(植物類)

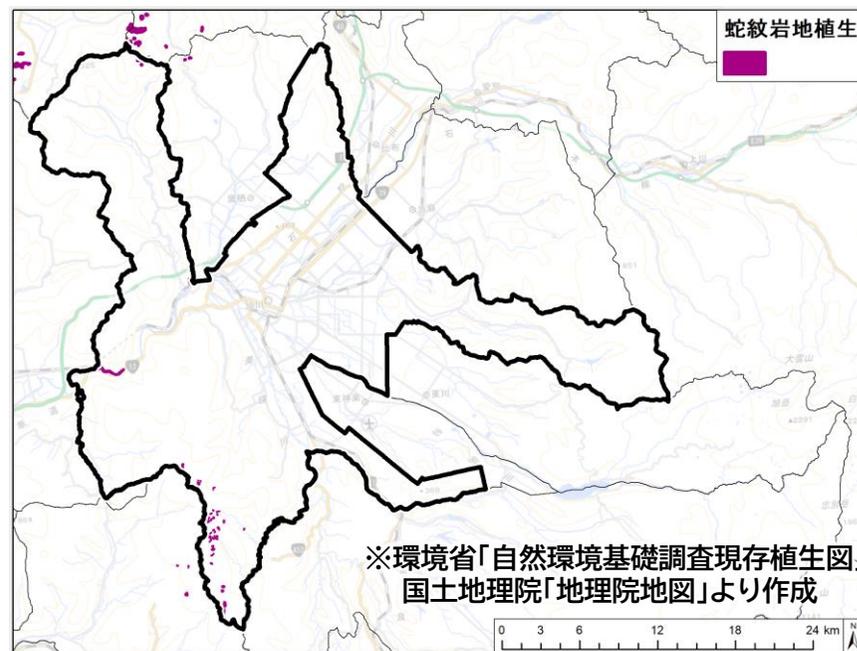
蛇紋岩地植生

- 旭川市は地質学上の神居古潭帯の標式地として知られており、蛇紋岩が幌内山地、神居古潭、嵐山、江丹別に広く分布する。
- 蛇紋岩土壌は貧栄養で、過剰に摂取すると有害な物質が含まれ、一般の植物が生育するには厳しい環境である。このため、蛇紋岩土壌に適応、分化した蛇紋岩植物や高山性植物、稀産種なども分布し極めて貴重な植物相である。

➡ 学術的価値や希少性から保全することが望ましく、蛇紋岩地植生の分布域はゾーニングマップでの「調整エリア」として取り扱う。



蛇紋岩の岩相分布地図



蛇紋岩地植生の分布地図



2 ヒアリング等の実施状況

※第3回懇談会資料から専門家ヒアリングにより追加修正した箇所を赤字で記している。

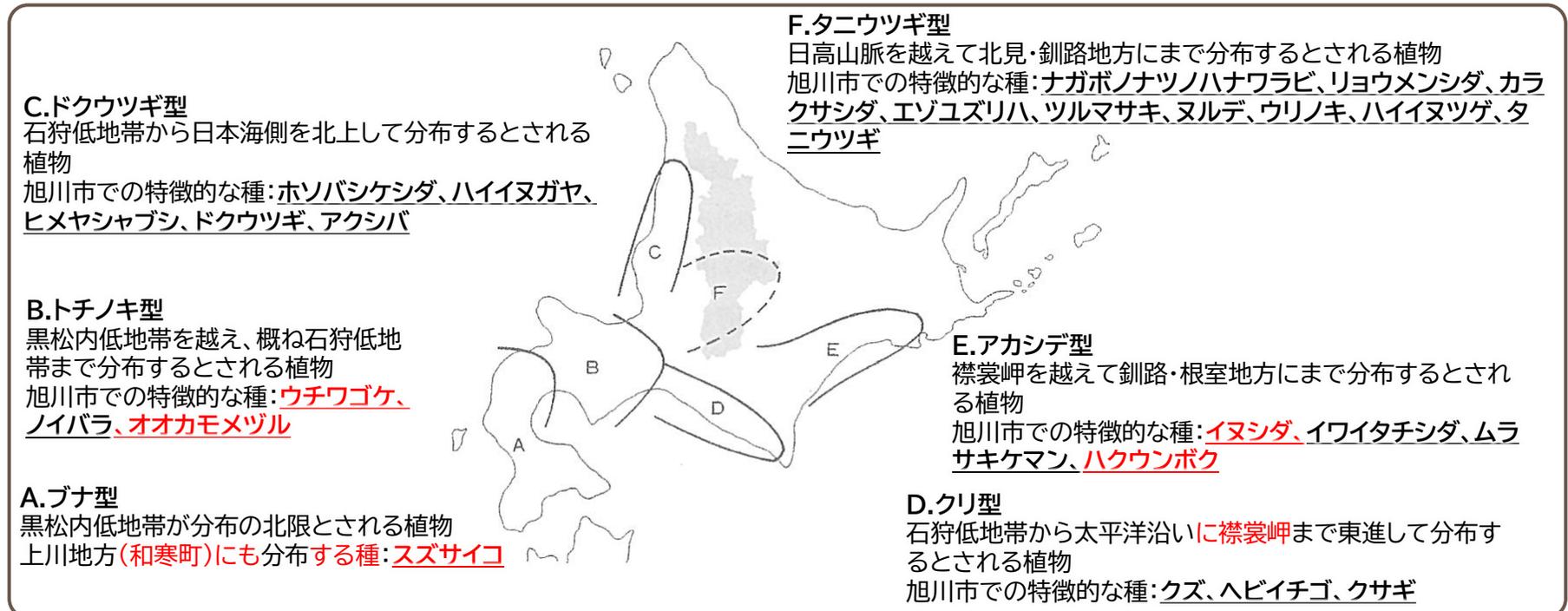
(1) 専門家ヒアリング

③ ヒアリング結果(植物類)

温帯要素系植物の分布型

・旭川市周辺の上川地方に生育する植物は、分布移動の歴史的背景に基づき、温帯要素系植物の分布型で特徴付けられている。

➡ 温帯要素系植物の分布型と、各分布型に特徴的な植物種についてはゾーニングマップでの「環境配慮事項」として整理する。



温帯要素系植物の分布型

※「旭川市北邦野草園研究報告第8号」より作成



2 ヒアリング等の実施状況

(2)関係者ヒアリング

①旭川市地域振興部都市計画課(景観担当)

項目	内容
ヒアリング先と実施時期	旭川市地域振興部都市計画課(景観担当) 12/24(水)に実施
(1) 市内の重要な眺望点や景観資源について	<ul style="list-style-type: none"> ・“ランドマーク橋”は橋そのものを対象とするものであり、必ずしも眺望点であるとは限らない。 ・市HP“大雪山・十勝岳連峰の眺望”で大雪山・十勝岳連峰が良く見える場所を紹介しているため、それを追加すること。
(2) “周辺の丘陵や大雪山・十勝岳連峰への眺望”への配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「大規模行為の景観形成方針」で市HPで示す4つの主要眺望点については、大雪山・十勝岳連峰の稜線を超えないように配慮することを求めている。

⇒ ゾーニングマップでの「環境配慮事項」として整理。



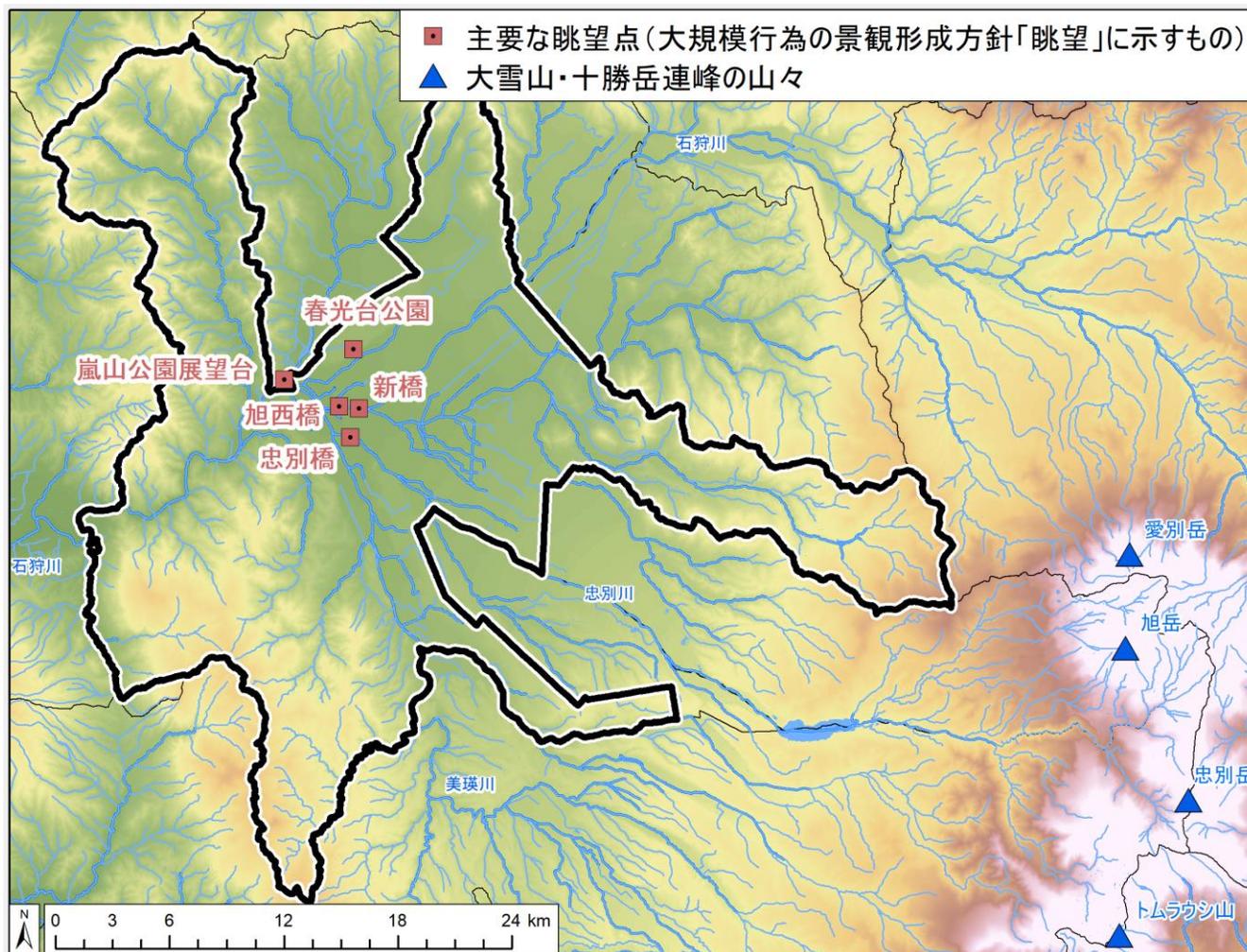
鉄塔や高層建築物は
“大雪山・十勝岳連峰”の稜線を超えない
ように求められている

大雪山・十勝岳連峰の眺望に求める配慮(春光台での例)



2 ヒアリング等の実施状況

(2)関係者ヒアリング ①旭川市地域振興部都市計画課(景観担当)



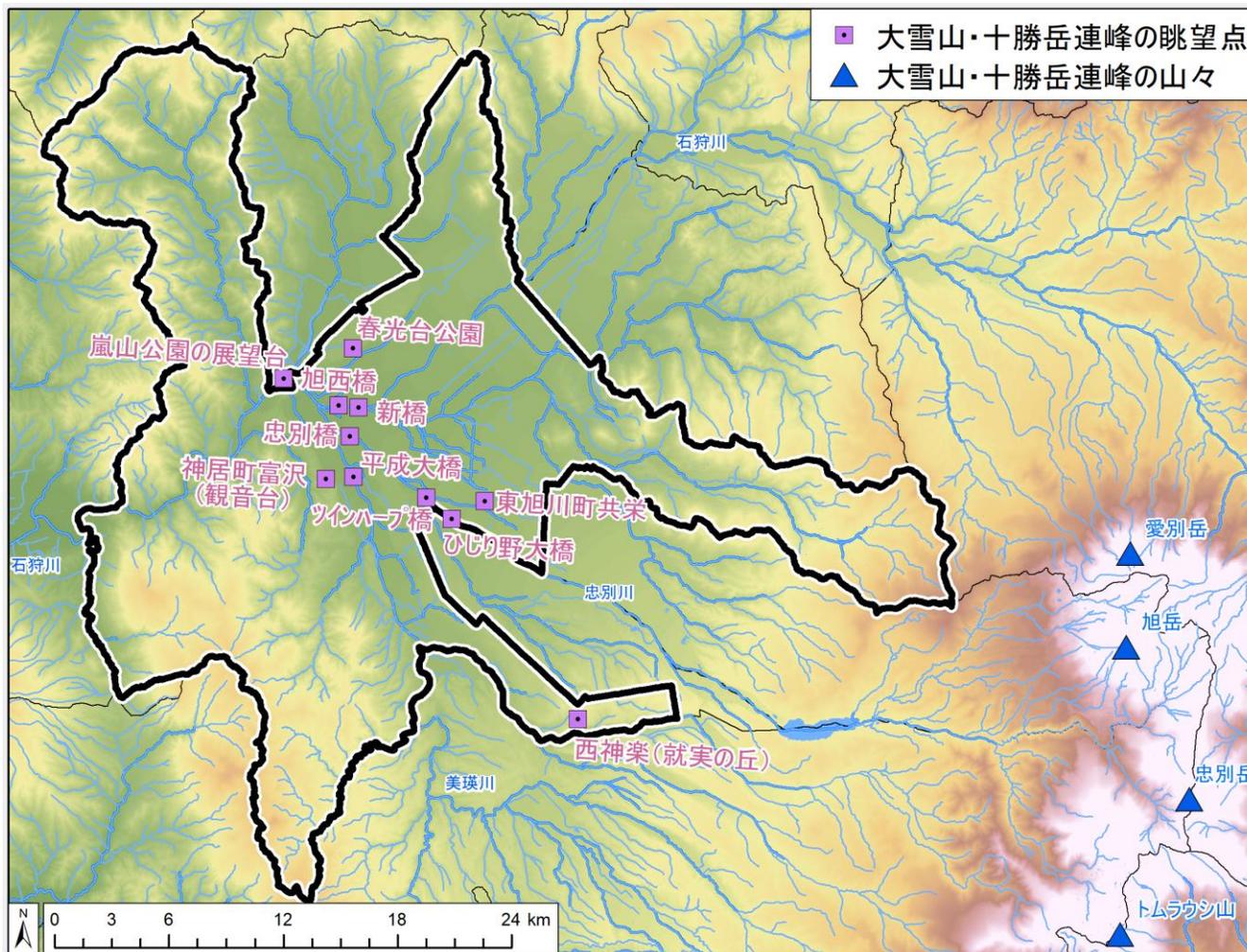
「大規模行為の景観形成方針」で示す4つの主要眺望点



2 ヒアリング等の実施状況

(2)関係者ヒアリング

①旭川市地域振興部都市計画課(景観担当)



旭川市都市計画課が公表する“大雪山・十勝岳連峰が良く見える場所”

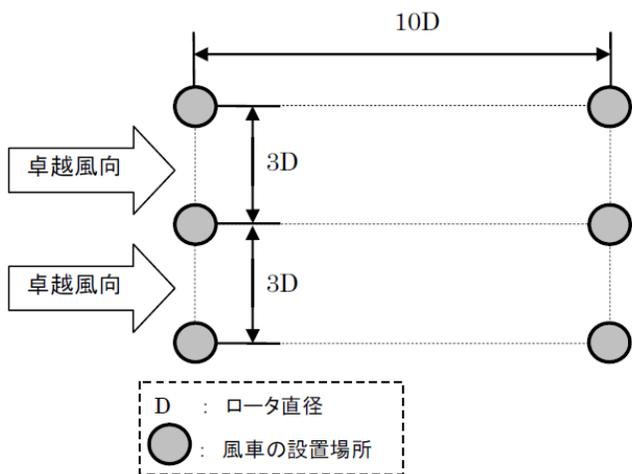


3 景観調査

(1) 可視領域図

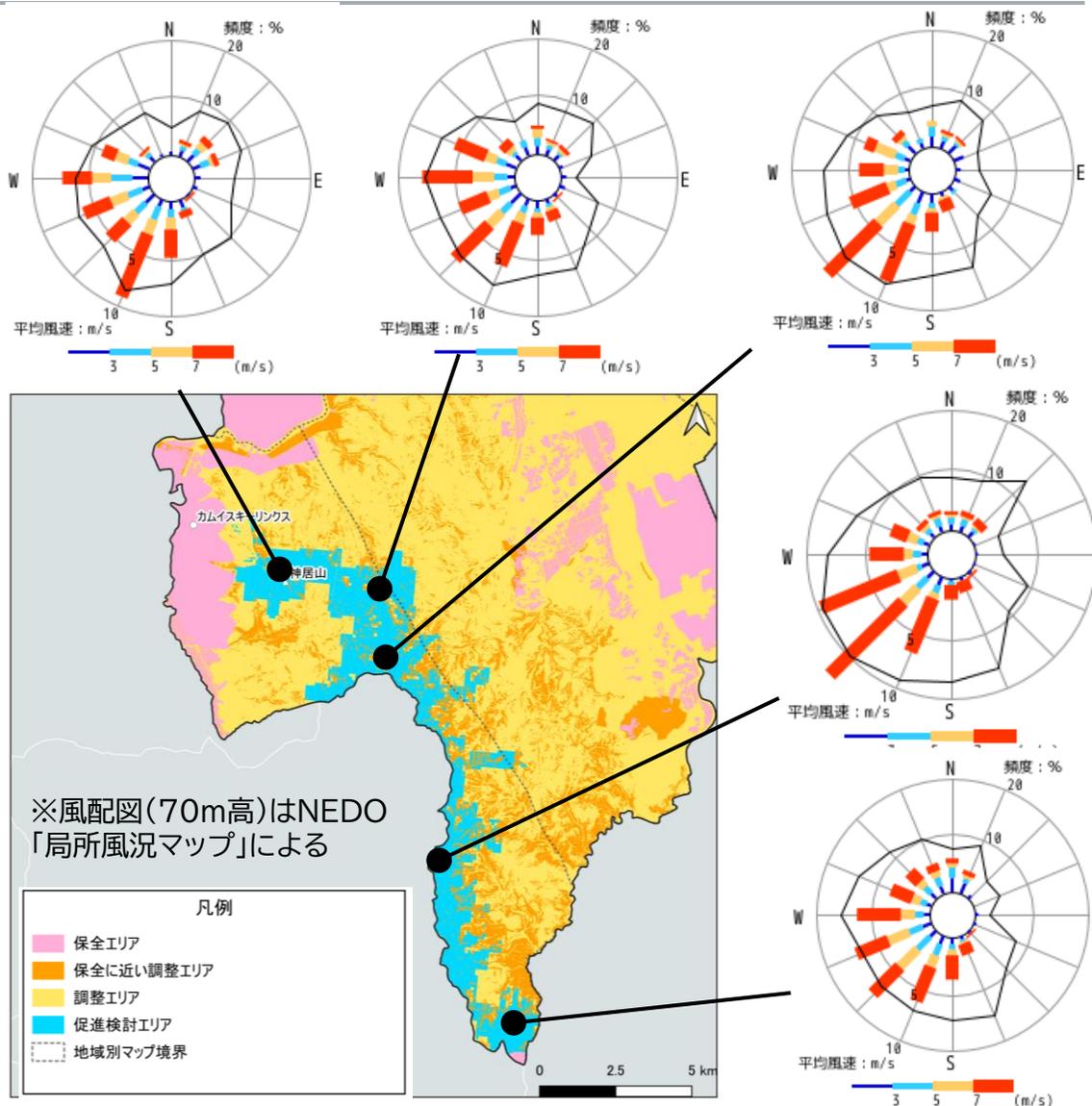
①-1 前提条件

ゾーニングマップ素案(陸上風力発電)の促進検討エリアにおいては、南西の風が卓越するため、卓越風向に対し10D×3Dで、風車の配置を想定。



出典:「風力発電導入ガイドブック(2008年2月改訂第9版)」(NEDO)

陸上風力発電の配置条件



ゾーニングマップ素案(陸上風力発電)と風配図

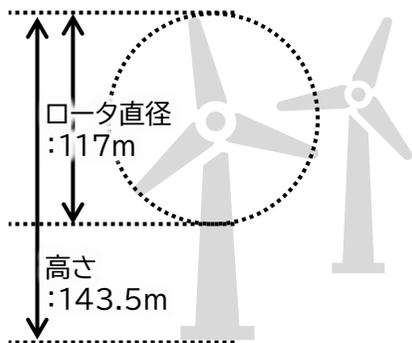


3 景観調査

(1) 可視領域図

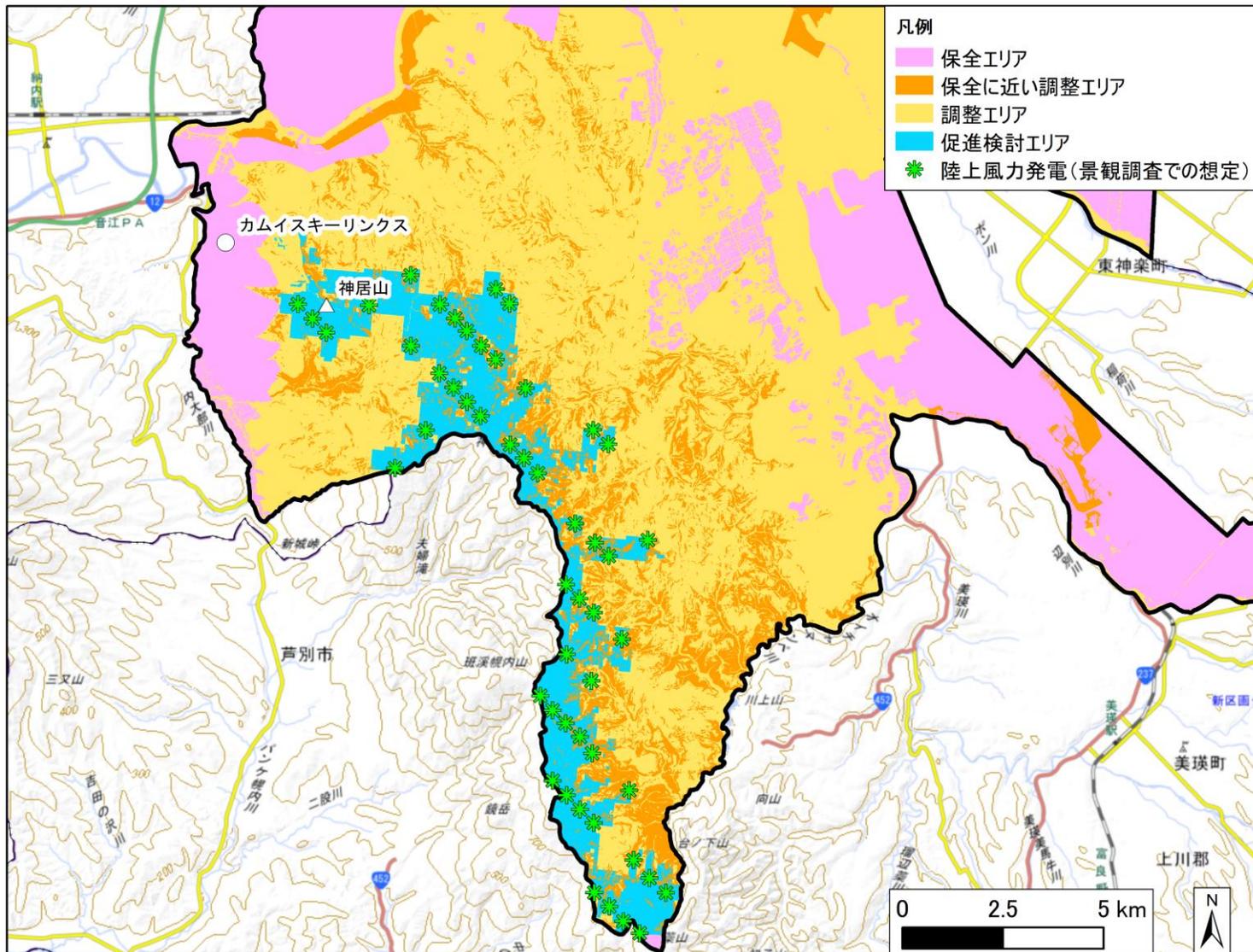
①-1 前提条件

4MWクラス風車を
10D×3Dで機械的に配置。



4MWクラス風車の想定

陸上風力発電の条件



陸上風力発電の配置(想定)



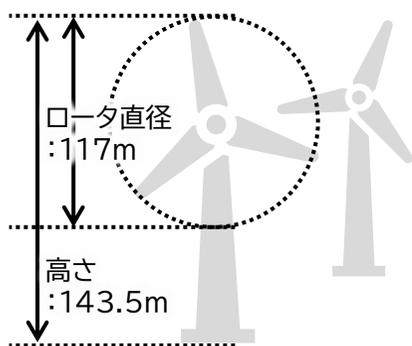


3 景観調査

(1) 可視領域図

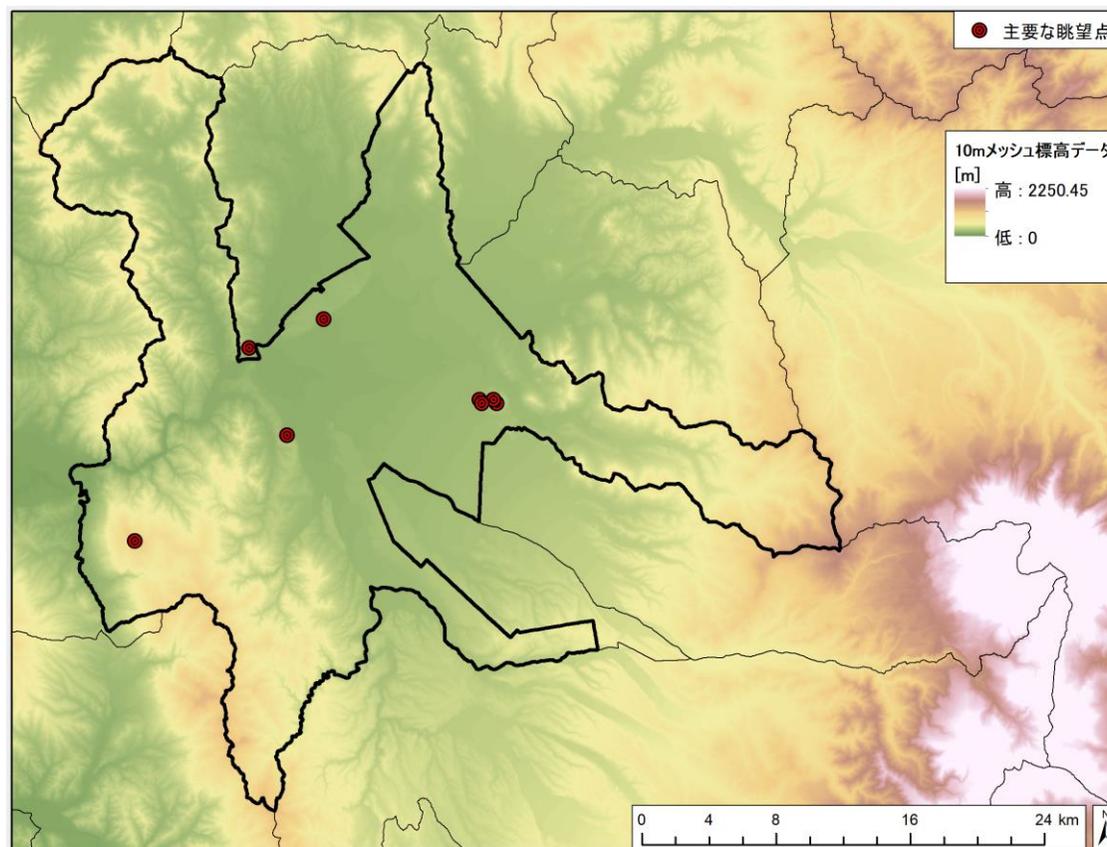
①-2 調査方法

10mメッシュ標高データを用いて、主要な眺望点から4MWクラス風車が見えるエリアを算出し、可視領域図を作成。



4MWクラス風車の想定

陸上風力発電の条件



10mメッシュ標高データと主要な眺望点



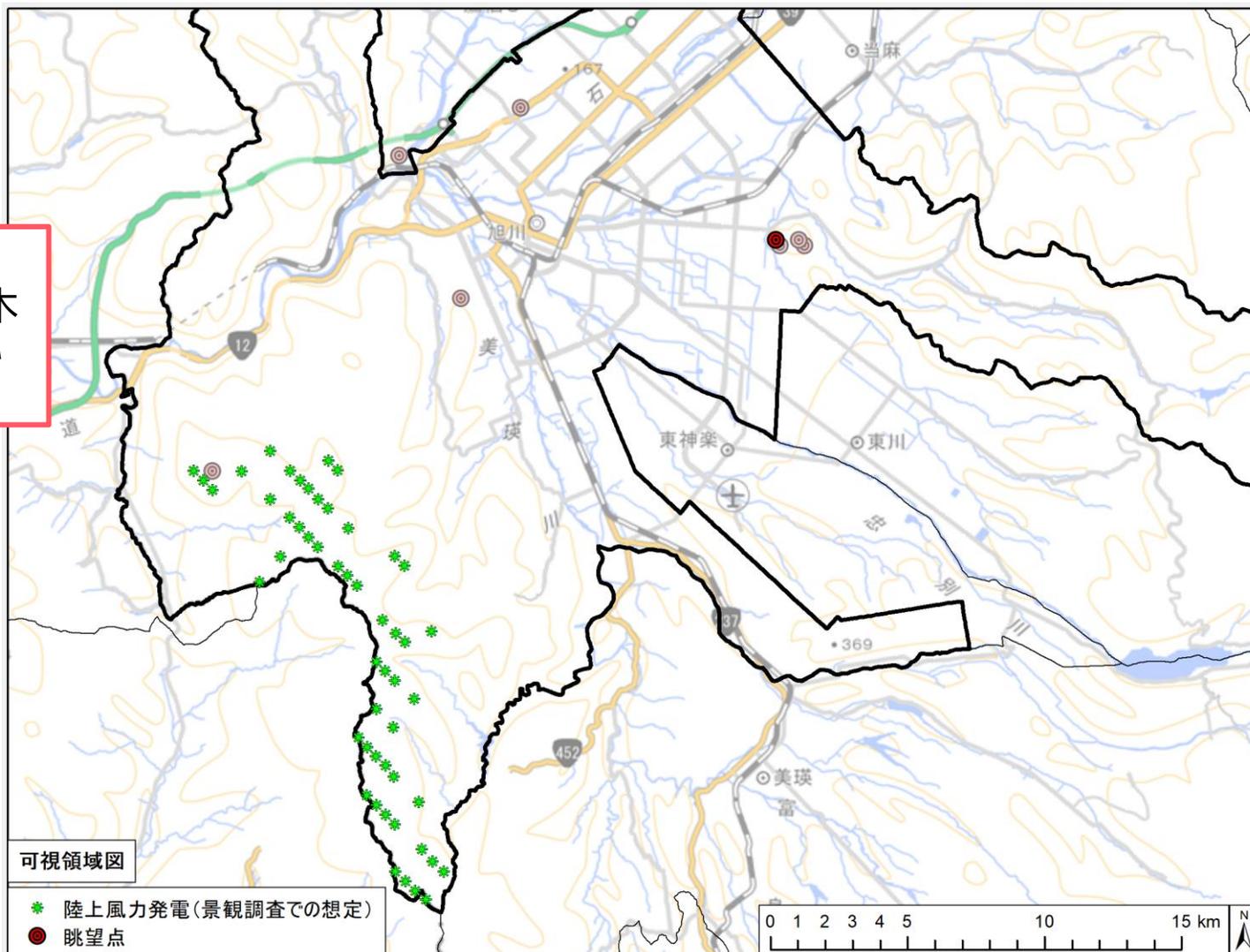
旭山公園
(旭山稻荷金刀比羅神社付近)

3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

旭山公園(旭山稻荷金刀比羅神社付近)では、樹木により眺望が得られないため、可視領域がない。



陸上風力発電の可視領域図



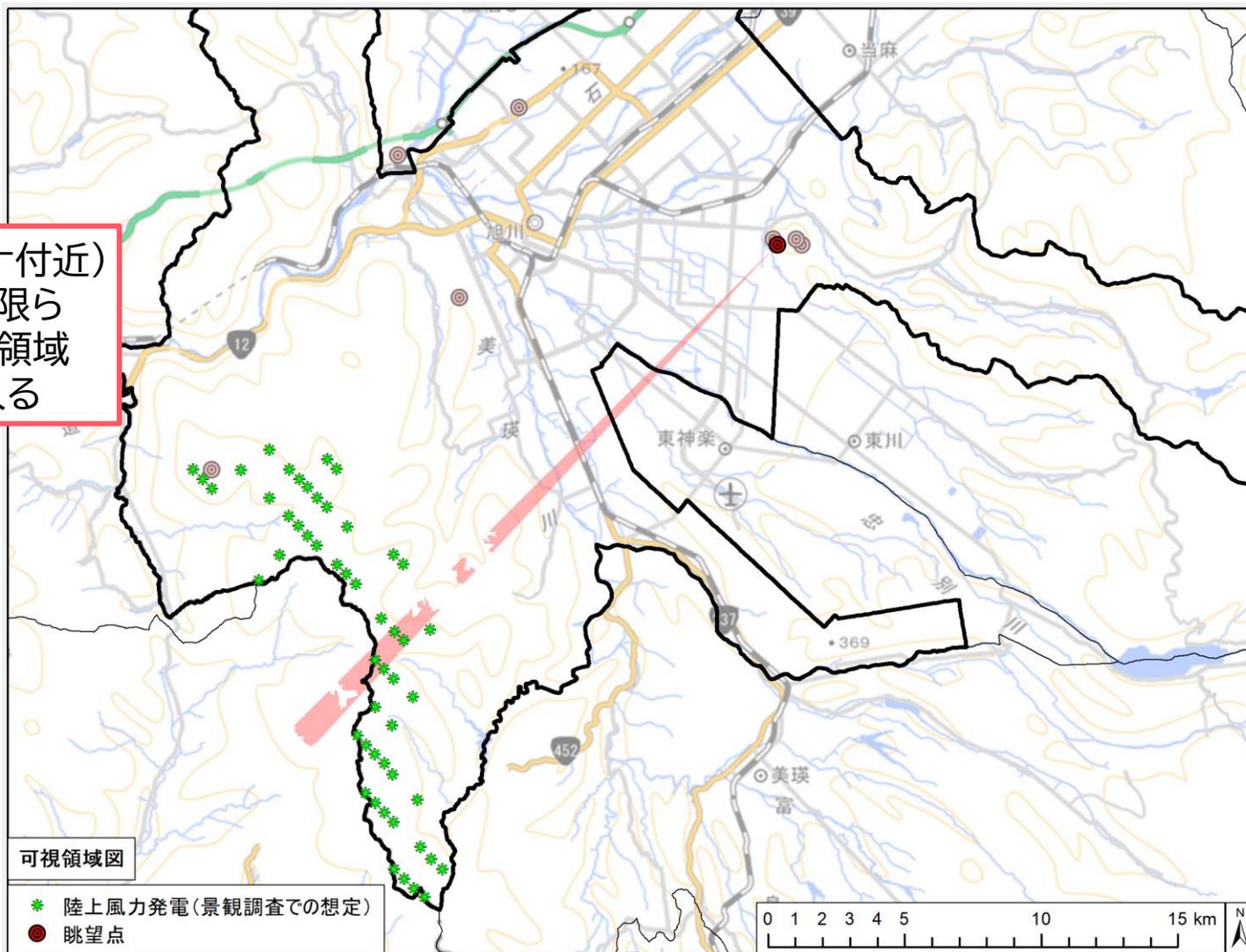
旭山公園
(テレビアンテナ付近)

3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

旭山公園(テレビアンテナ付近)では、樹木により眺望が限られるため、わずかな可視領域内に4本程度の風車が入る



陸上風力発電の可視領域図



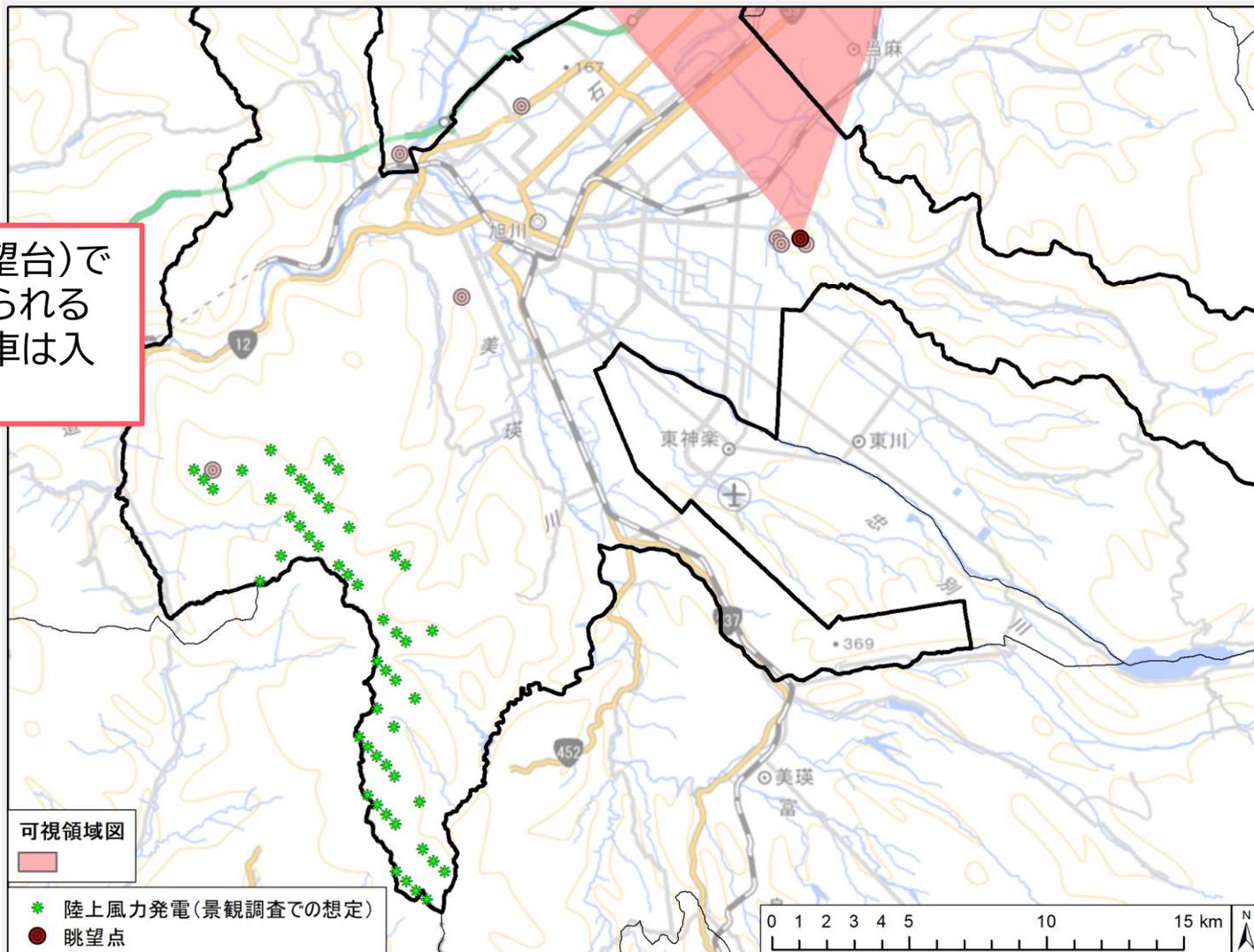
旭山公園
(海底の丘展望台)

3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

旭山公園(海底の丘展望台)では、眺望が北方面に限られるため、可視領域内に風車は入らない



陸上風力発電の可視領域図



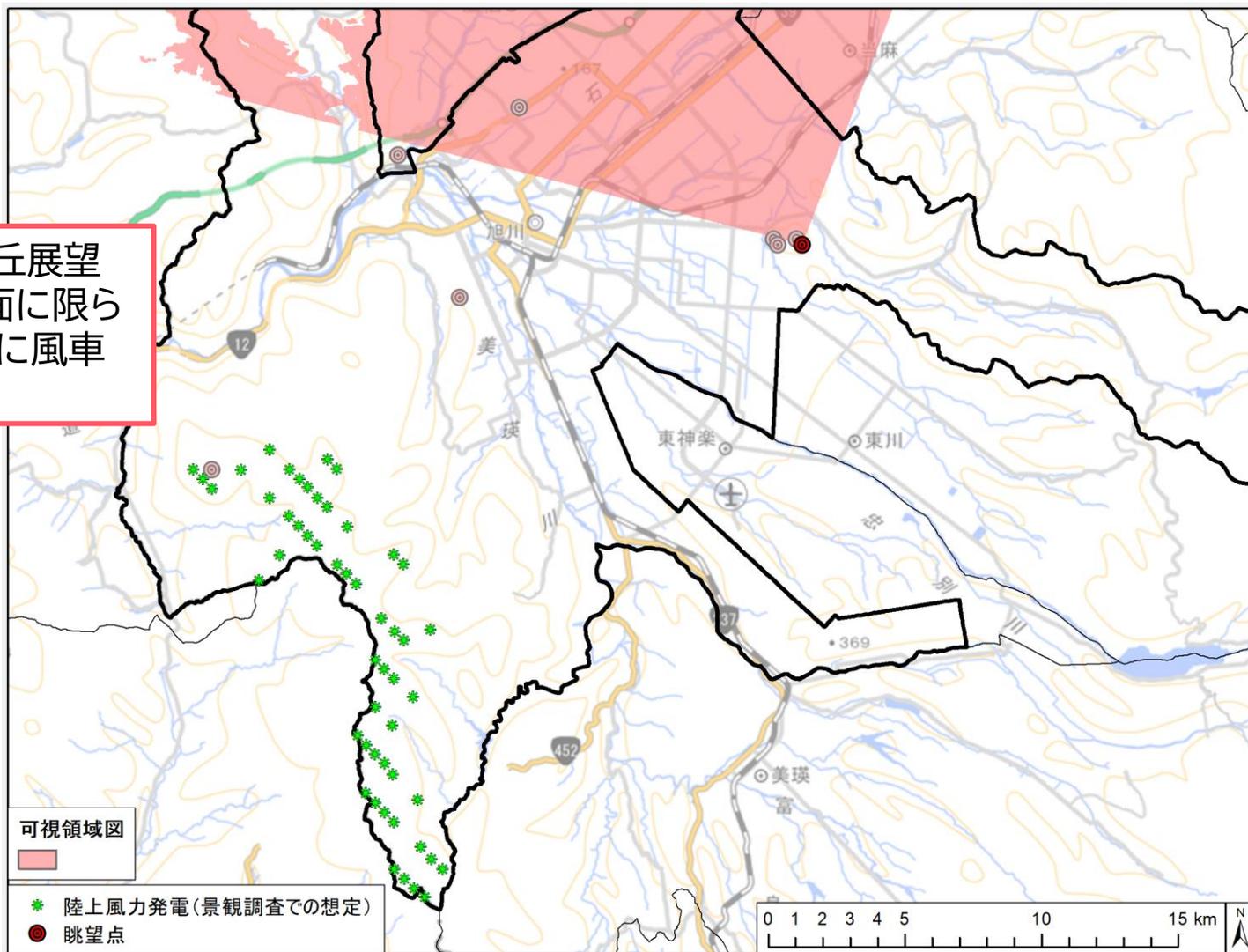
旭山公園
(春に会える丘展望台)

3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

旭山公園(春に会える丘展望台)では、眺望が北方面に限られるため、可視領域内に風車は入らない



陸上風力発電の可視領域図

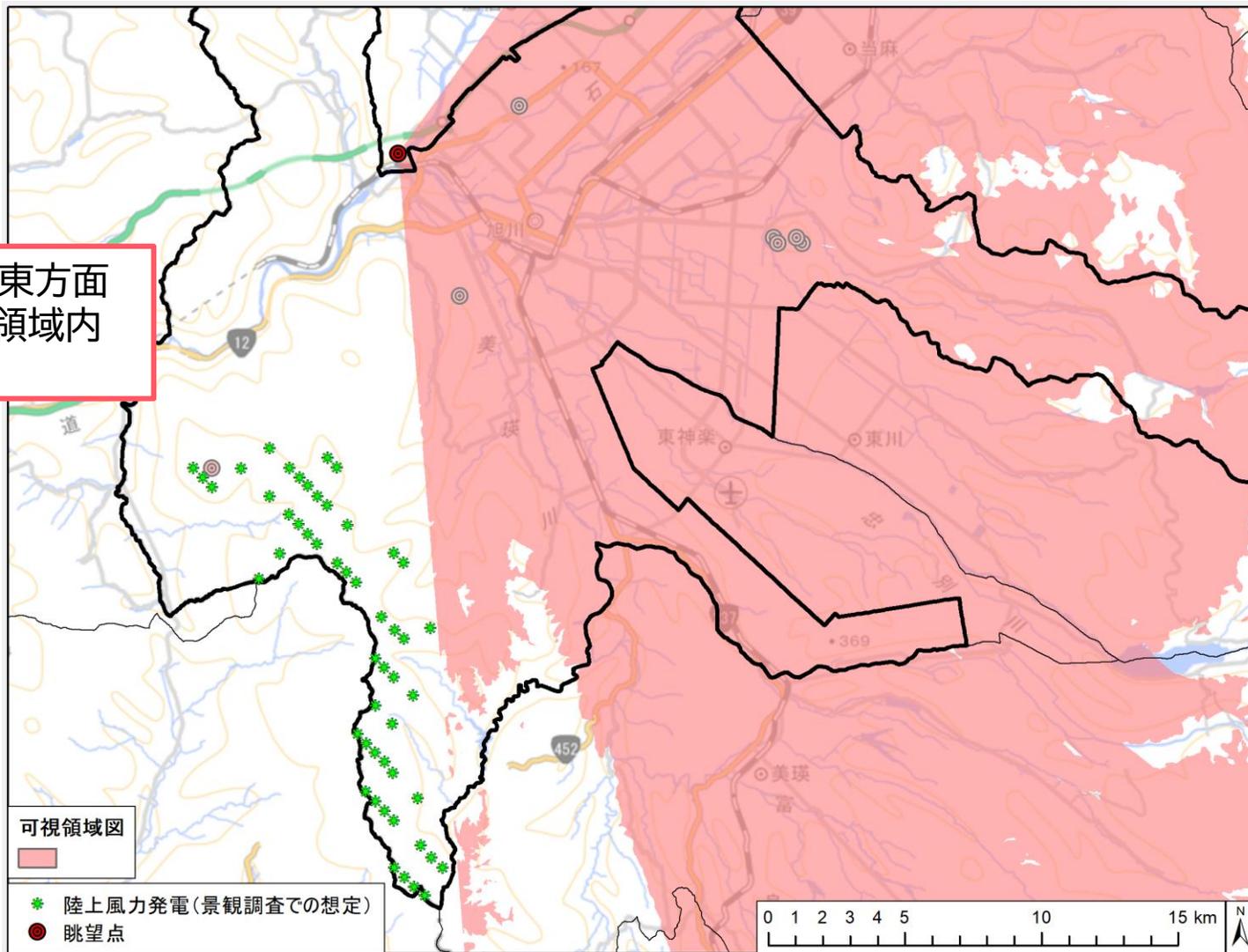


3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

嵐山公園では、眺望が東方面に限られるため、可視領域内に風車は入らない



陸上風力発電の可視領域図

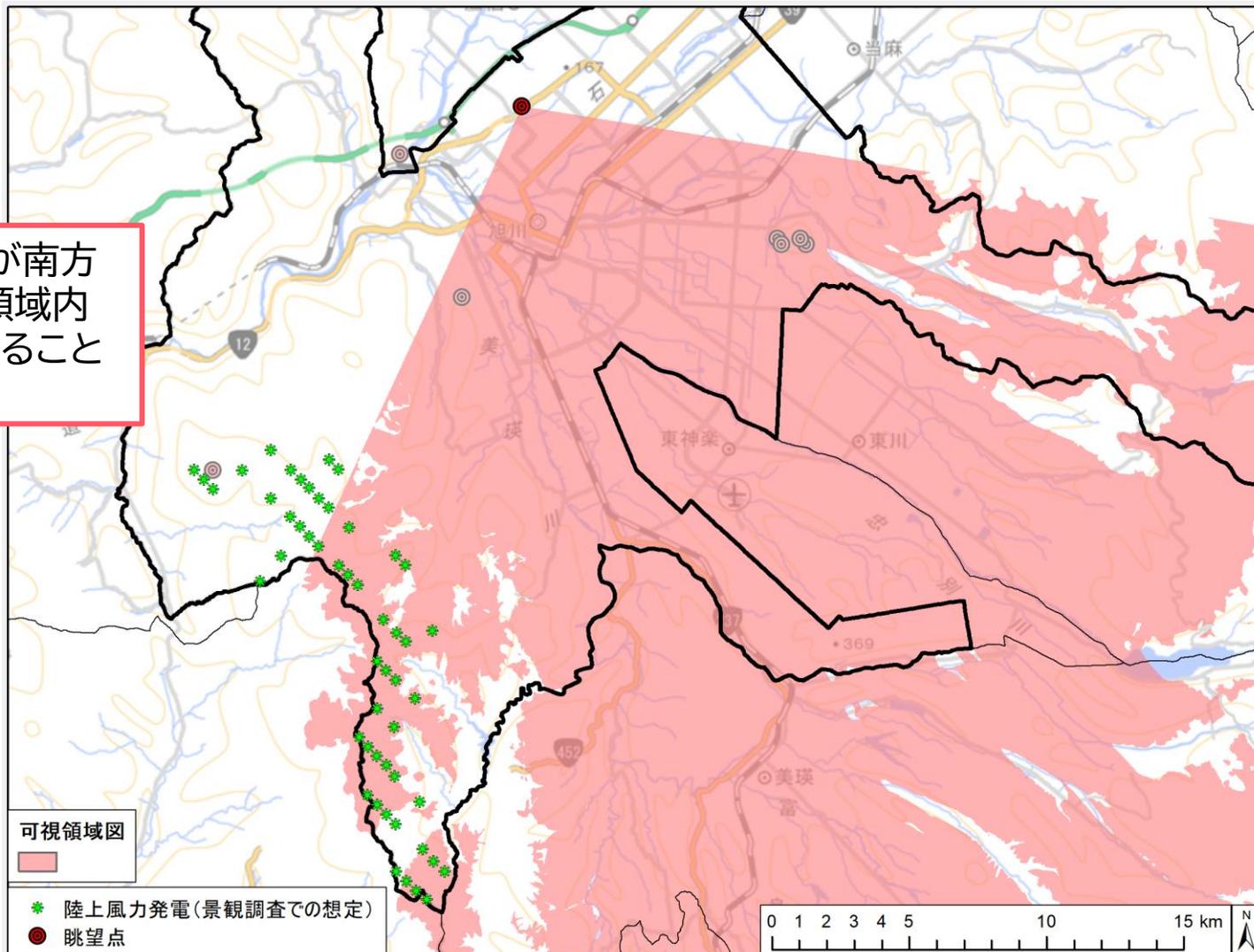


3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

春光台公園では、眺望が南方面に開けており、可視領域内に半分程度の風車が入ることが想定される。



陸上風力発電の可視領域図

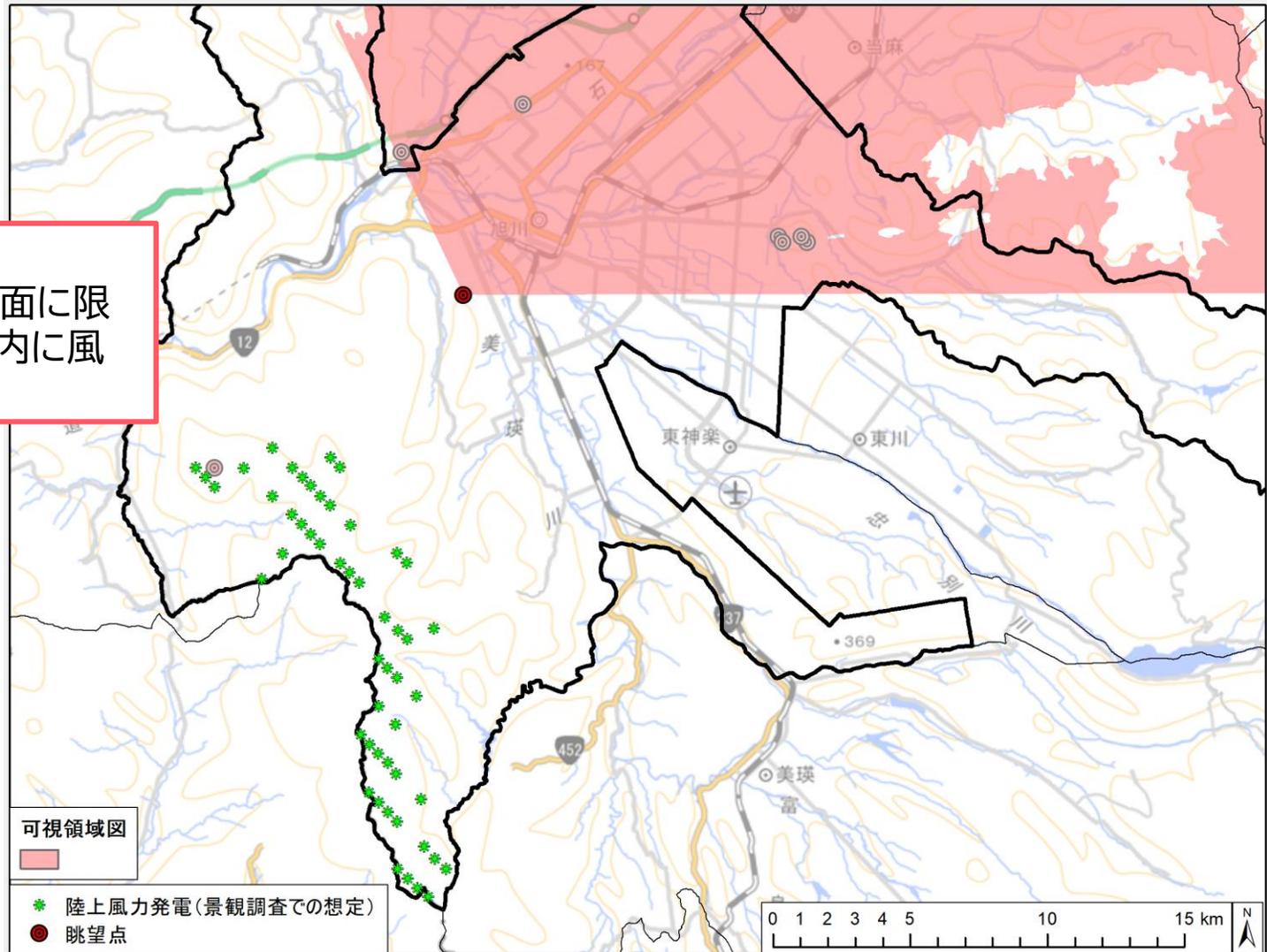


3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

伊ノ沢市民スキー場
では、眺望が北～東方面に限られるため、可視領域内に風車は入らない



陸上風力発電の可視領域図

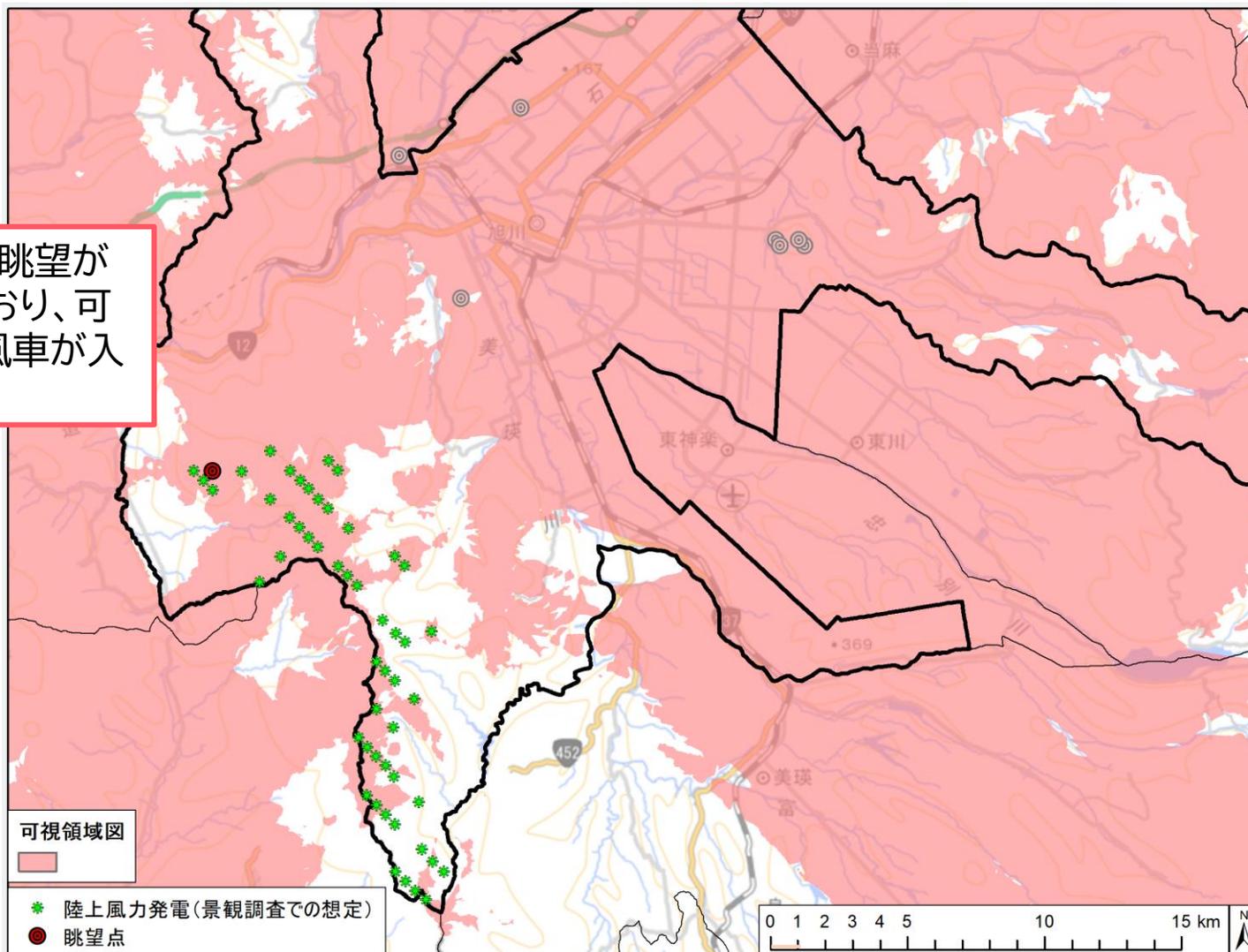


3 景観調査

(1) 可視領域図

② 調査結果

神居山の展望台では、眺望がほぼ360度にかけており、可視領域内に大部分の風車が入ることが想定される。



陸上風力発電の可視領域図

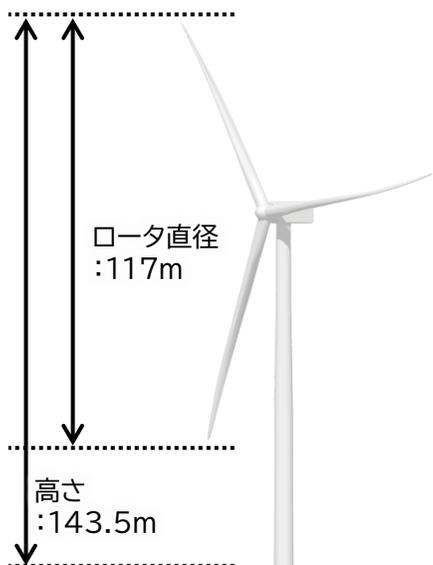


3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

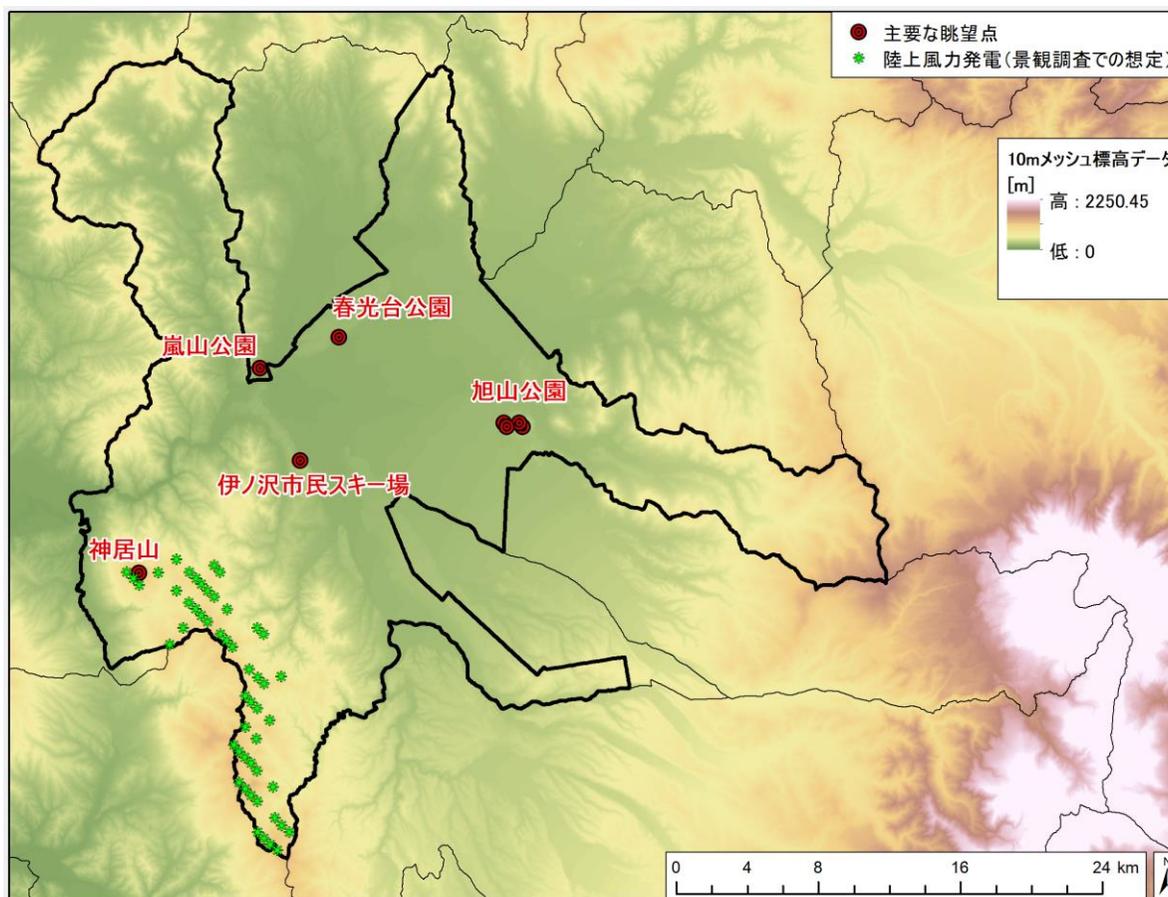
① 調査方法

可視領域図と同様の陸上風力発電の配置条件で、主要な眺望点から見える4MWクラス風車を現地撮影写真上に投影し、フォトモンタージュを作成。



4MWクラス風車の想定

陸上風力発電のモデル



陸上風力発電設備配置と主要な眺望点

3 景観調査

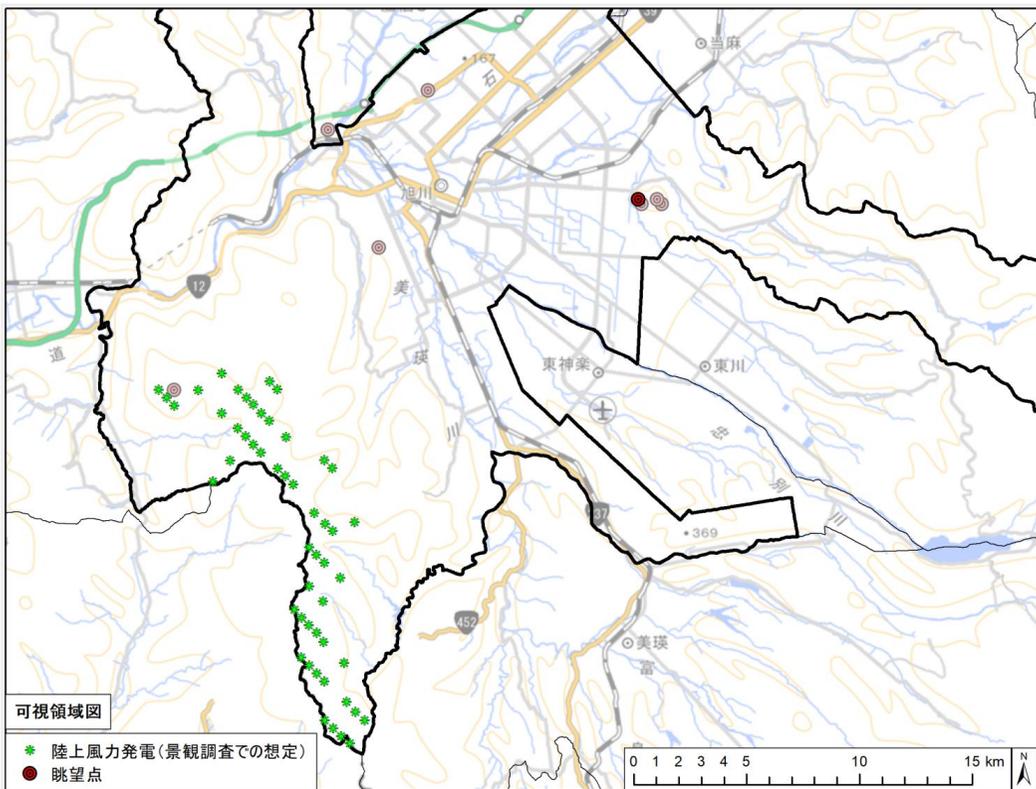
旭山公園
(旭山稲荷金刀比羅神社付近)



(2) フォトモンタージュ

眺望なし

② 調査結果



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)



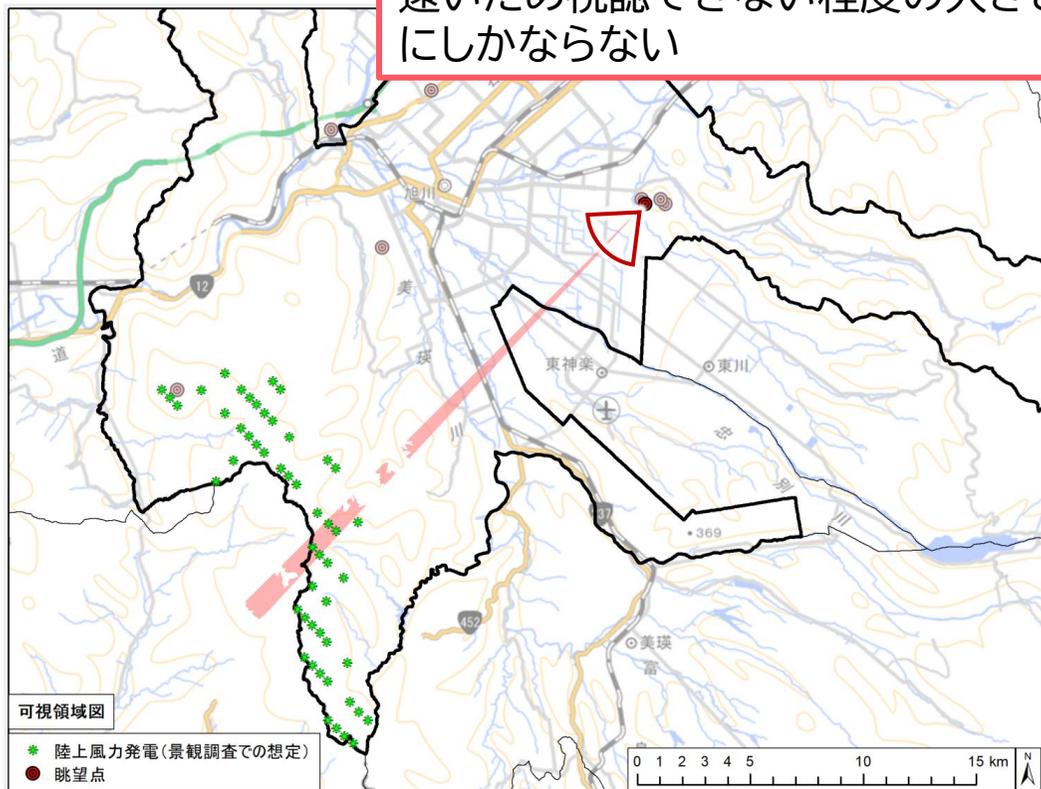
旭山公園
(テレビアンテナ付近)

3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車はあるものの、遠いため視認できない程度の大きさにしかならない



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)



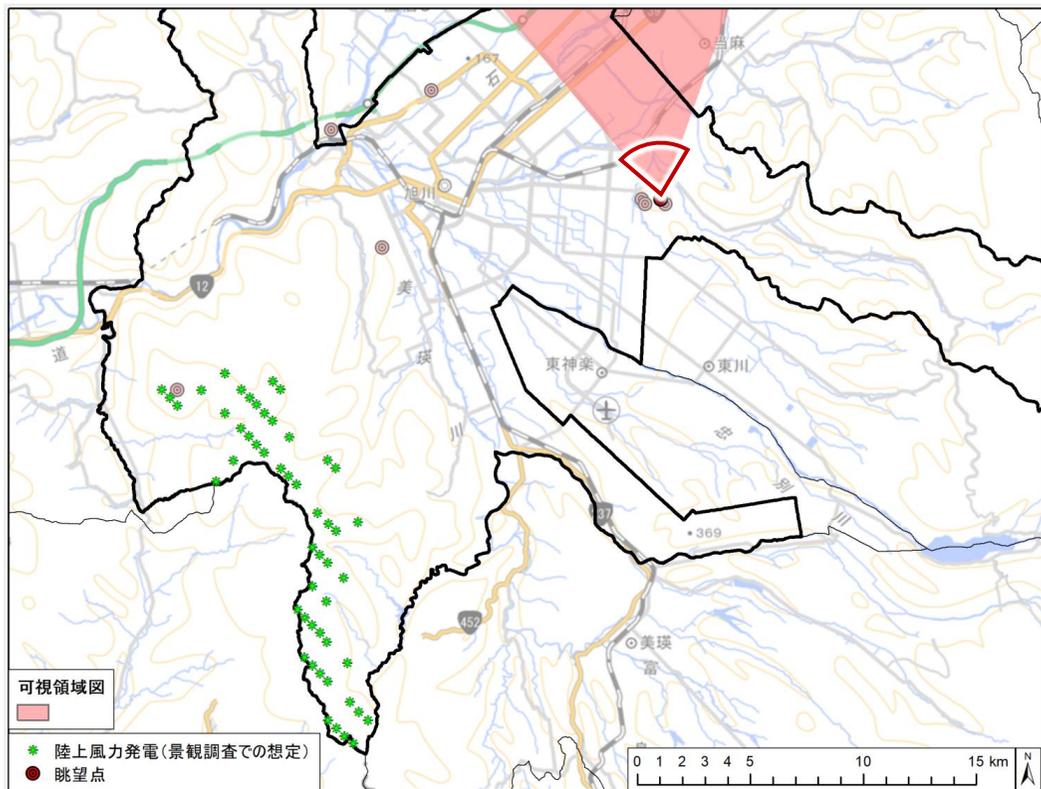
旭山公園
(海底の丘展望台)

3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車は入らない



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)



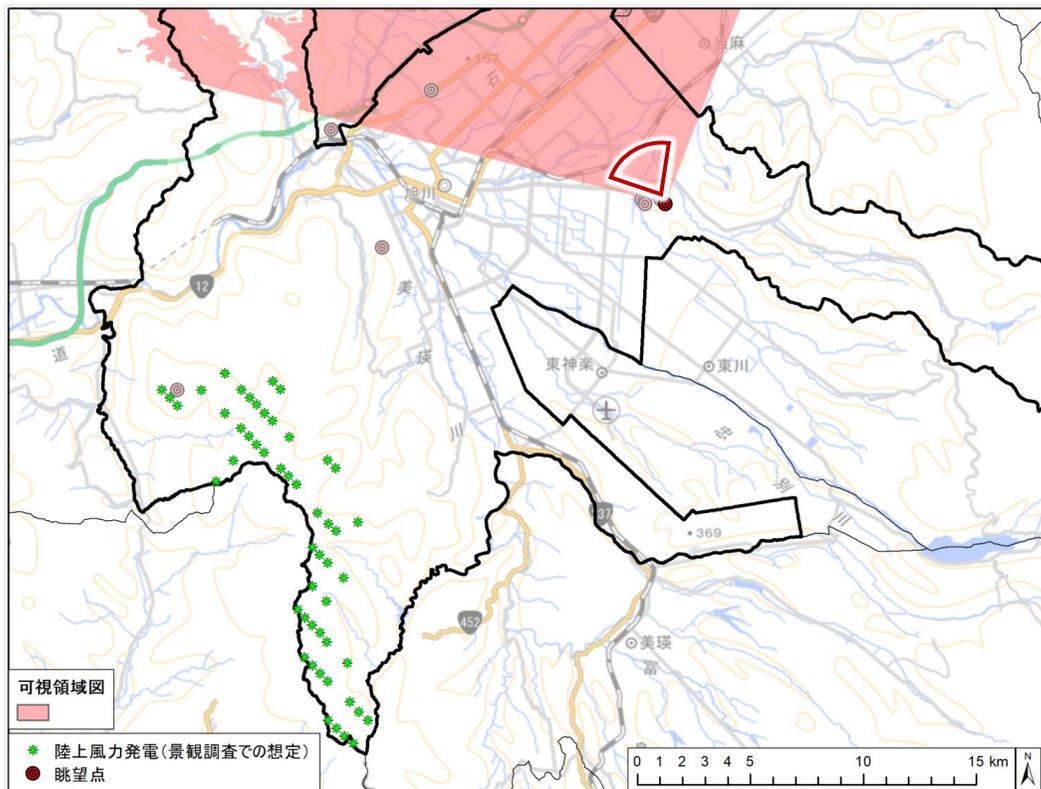
旭山公園
(春に会える丘展望台)

3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車は入らない



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)



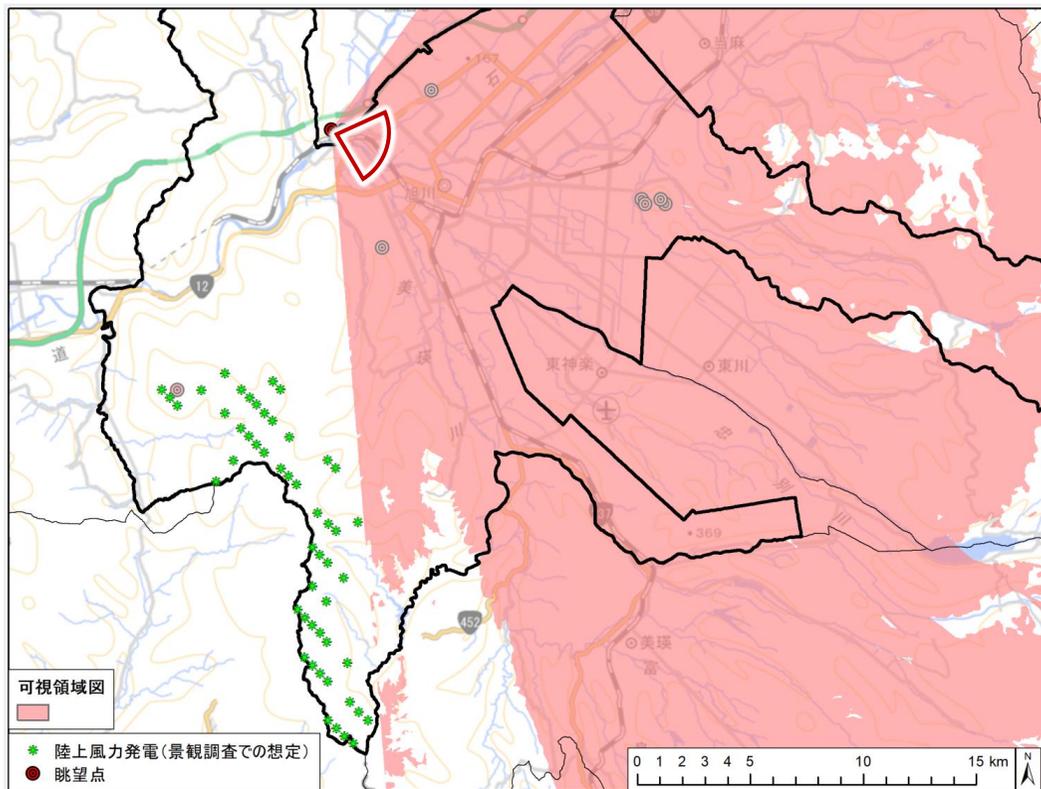
嵐山公園

3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車は入らない



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)

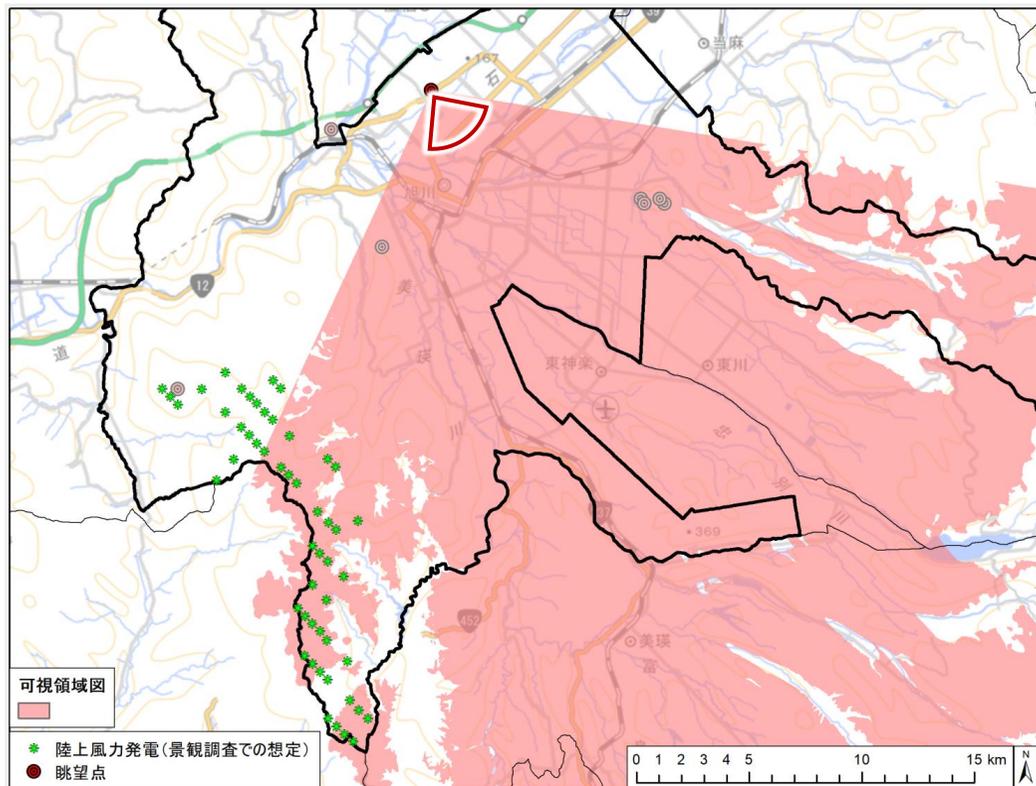


3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車は入らない



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)

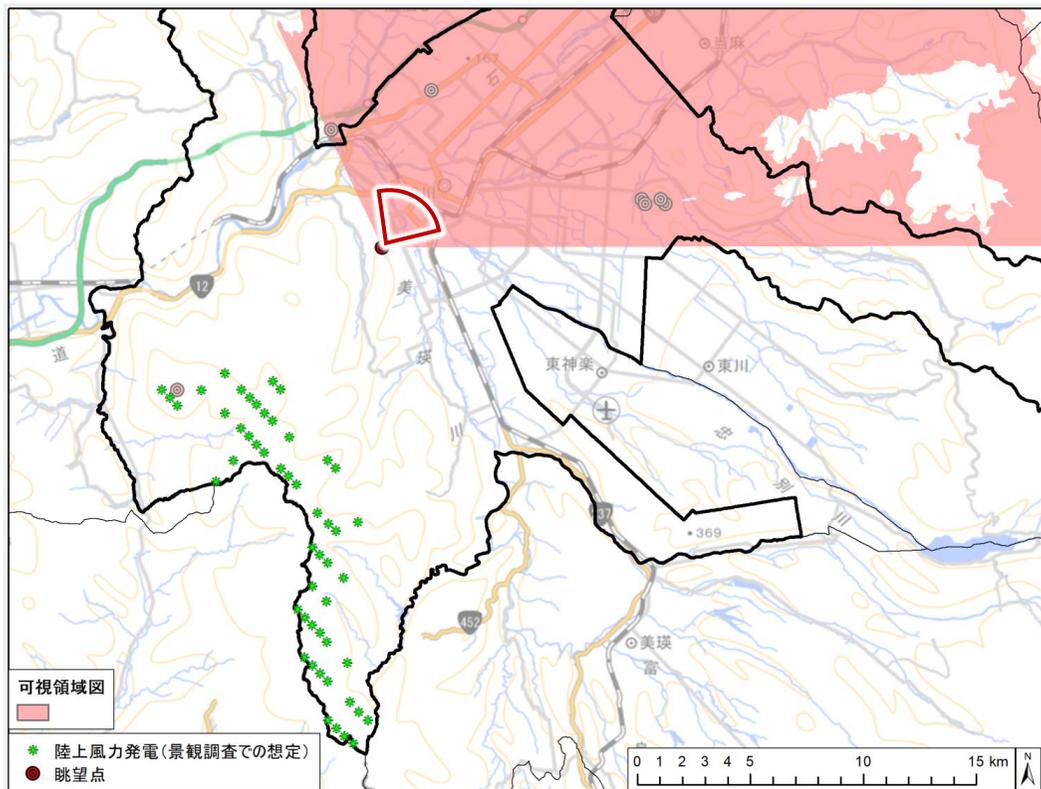


3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車は入らない

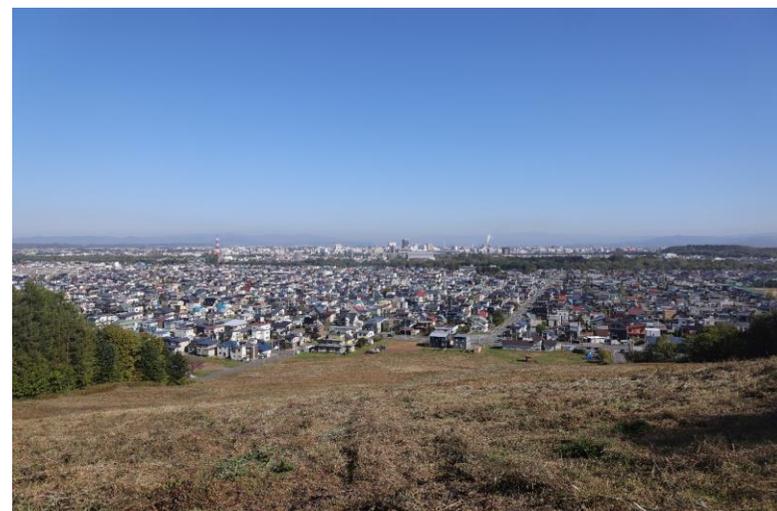


景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)

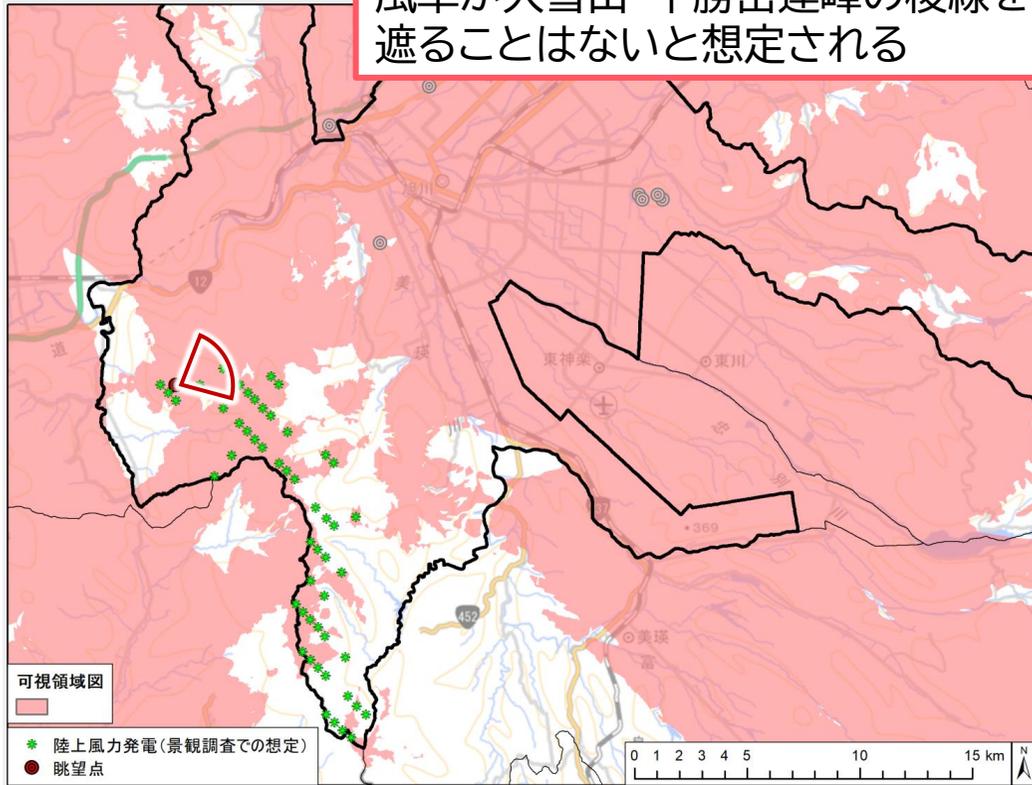


3 景観調査

(2) フォトモンタージュ

② 調査結果

眺望範囲内に風車はあるものの、
風車が大雪山・十勝岳連峰の稜線を
遮ることはない想定される



景観の現地調査地の位置図

※国土地理院「地理院地図」より作成



(展葉期)



(紅葉期)